

## 両親への孝行（パート 2 / 3）:母の価値:天国は彼女の足元にある

説明： イスラームは母に多大な敬意を払っています。  
より アーイシャ ステーション (© 2009 IslamReligion.com)  
掲載日時 06 Dec 2009 - 編集日時 12 Dec 2009

カテゴリ： [記事](#) > [崇拜行為とその実践](#) > [イスラーム的モラルと習慣](#)

クルアーンのいくつかの節で神は、両親への義務の遂行、孝行、そして感謝がイスラームの必要不可欠なことだと明確にされています。しかしながら、イスラームにおいて女性、特に母親は、最高の尊敬と献身を払うべきものと位置づけられています。神自身が、母親の役割における様々な困難を述べているのです。



“  
われは、両親への態度を人間に指示した。人間の母親は、苦勞に襲われてその子を胎内で養い...” (クルアーン 31:14)

預言者ムハンマドの時代、一人の男が軍隊の遠征に参加する許可を求めました。預言者は男に、母親は健在かどうかを尋ねました。彼が健在です、と答えると、預言者ムハンマドはこう言いました：“彼女のもとにいなさい。なぜなら天国は彼女の足元にあるからです” (アハマドとアン ナサーイーの伝承)

これは何と素晴らしい譬えでしょうか！？母親と子供は愛と尊敬をもってお互いを見つめあいます。小さな手は大きな手で包まれています。ストレスや病の際に顔に触れる母の手。または母の愛のぬくもり。健康であろうと、病であろうと、順境にある時も困難な時も、子供たちを育て世話をする母の姿。しかしこの言葉：「天国は母の足元にある」は正確にはどういう意味なのでしょう？単純に言えば、天国の門は母親を大切にし、尊敬する者に開かれているということです。

イスラームの家族において母の役割は、家族の保護者であり供給者である父親の役割と同等に重要です。母親は妊娠と出産の喜びと困難の両方を経験するだけでなく、子供たちを彼女の一生をかけて、養育し世話するのです。彼らを正しく、敬虔な人間に育て、教育することは母親の責任です。料理をし、掃除をし、育て、教育する一方、母親はまた彼らの精神的、感情的そして身体的健康と幸福において責任があるのです。そしてその代りとして、子供たちは母に諸々の世話や愛情、尊敬や彼女に対する義務の遂行を負うのです。神が母親たちに課せられた任務は大きく、時に耐えがたいものです。従って良い母への報酬は天国以下の何物でもなく、そして現世においては彼女は尊重され名誉を与えられるのです。

### 最も良く接すべき者は誰か？

預言者ムハンマドのハディースが伝えるところによれば、ある男が預言者の所へやって

きて尋ねました：“人々の中で、私が最も良く付き合うべき者は誰ですか？”預言者は、「あなたの母です」と言いました。男は“それから誰ですか？”と言いました。預言者は、「それからあなたの母です」と言いました。男はまた、「それから誰ですか」と尋ねました。預言者は「それからあなたの母です」と言いました。男は「それから誰ですか」と再度尋ねました。すると預言者は「それからあなたの父です」と答えられました。(アル ブハーリーとムスリムの伝承)

預言者のこのたった2つの格言から、イスラームにおける母の重要性を理解することができます。しかし物質主義が蔓延する今日、神が私たちに義務付けられた両親への、特に母への尊敬はないがしろにされがちです。時に、私たちは自分自身が、両親について不満や軽蔑の言葉を発していることに気がきます。これらの行為はイスラームが命じるものではありません。

神は、預言者ヤヒヤー（ヨハネ：バプテストとして知られる）は、彼の両親に対して忠実で、彼らを愛し、彼らに従順であったと伝えていています。彼はこう言いました：

“（そしてかれの息子に：）「ヤヒヤーよ、啓典をしっかりと守れ。」（と命令が下った）。そしてわれは、幼少の時に彼に英知を授け、またわが許から慈愛と清純な心を授けた。彼は主を畏れ、父母に孝行で高慢でなく、背くこともなかった。”（クルアーン19:12-14）

付け加えて、クルアーンではこのテーマに関するイエスの言葉も聞くことができます。彼は神への従順に結びつけて、彼の母マリヤムへの義務をこのように表現しています。

“（その時）彼（イエス）は言った。「私は、本当にアッラーのしもべです。かれは私に啓典を与え、また私を預言者になされました。またかれは、私が何処にいようと祝福をお与えになります。また生ある限り礼拝を捧げ、喜捨をするよう、私に御命じになりました。また私の母に孝養を尽くさせ、私を高慢で恵まれない者になされませんでした。(Quran 19:30-32)

私たちの生活と同じくらい忙しい、預言者たちの生活、そしてよき先人達の生活を振り返り、彼らが両親、特に母親をどのように扱っていたかを振り返ることは、大変有益なことです。

## 教友たちのふるまい

預言者ムハンマドの教友の中で先導的な学者であるアブドッラ ブン ウマルは、一度ある男が泣きながら母を背負い、マッカの聖なる家のあたりに行くのを目にしました。彼は不満や困惑の素振りを見せませんでした。それどころか、彼は自分自身をラクダに譬える詩の一節を繰り返していました。彼はアブドッラ ブン ウマルを見ると、こう尋ねました：“これで私は母親への借りを返せましたか？”イブン ウマルは言いました：“いいえ。あなたは彼女があなたを出産した時の痛み一つ分(の恩義)すら、まだ返せていません。”

別のイスラーム初期からの教友、ディブヤーン ブン アリ アッ ソウリーもまた、彼の母とマッカに旅をしました。その旅は長く、しかも酷暑に見舞われました。旅の間、彼は道脇に小さな溝を掘り、冷たい水で満たしました。彼は母に向き直ると、こう言いました：“お母さん。この水の中に座って冷をとって下さい。”

神に従順であるムスリムは、両親に無頓着または親不孝であることはありません。彼ら

の両親、特に母を愛情と優しさをもって接した者には素晴らしい報酬が提供されますが、しかし親不孝には厳しい忠告も与えられています。預言者ムハンマドは次の言葉によって、親不孝の危険を描写しています。

ある男が預言者ムハンマドのもとに来て、“若い男が死にかけています。人々は彼に、「アッラー以外に神はなし」と唱えるように言っているのですが、彼はなぜかそうすることが出来ないのです。”と言いました。すると預言者は尋ねました：“彼は（健康であった時）礼拝をしていましたか？”彼は、ええ、と答えました。そして預言者はその男を見に行かれ、彼に「アッラー以外に神はなし」と唱えるよう励まそうとしました。しかしそれでも彼はその言葉を発することが出来ませんでした。預言者ムハンマドはそれから、死にかけているその男の母親を呼びました。彼の母親はその息子から頑強な親不孝を受けていました。

彼女が現れると、預言者は尋ねました：“尊い女性よ、彼はあなたの息子ですか？”彼女は、そうです、と答えました。彼はそれから“尊い女性よ、もし私たちがあなたの息子を業火の中に放り込むように脅したなら、あなたは彼を許しますか？彼女は、勿論彼が許されるように頼む、と答えました。預言者はそれから彼女に言いました：“それでは宣言しなさい、神と私をあなたの証言者とし、あなたが今、彼に満足していると。”老いた女性はただちに宣言しました：“神よ、あなたとあなたの預言者は、私が私の愛する息子に満足していることにおいて私の証人です。”それから預言者は死にかけている男に向かい、“私はアッラー以外に神はなく、かれに同等のものはなく、ムハンマドがかれの僕で使徒であると証言する”と唱えるように言いました。(アッ タバラーニーとアハマドの伝承)

そして彼の母の許しのため、死にかけていた男はその言葉を唱えることが出来ました。神の恩寵とご慈悲により彼が天国に入ることを許されますように。両親へのよい対応は天国への鍵ですが、その一方、彼らへの悪いふるまいは地獄の業火という罰をもたらすのです。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/1639>

Copyright © 2006-2011 [www.IslamReligion.com](http://www.IslamReligion.com). All rights reserved.